



エピモダニズムの時代に

「現在」に名前をつけることは常に難しい。
「ポスト post」という解決策が長らく主流であったが、「ポスト性」自体にも「その後」がありうるという事実を曖昧にしてきた。しかし現在はいまだに「ポストモダン」だろうか？

この講演では、驚くべき豊かさと複雑さを持つ別の接頭辞「エピ *epi*」を用い、この「ポスト性」を乗り越えることを提案する。「エピモダニズム」は、ポストモダン批判を再加工し、あらゆるポストアイロニーを含め、新たな関わり方への野心を再起動することによって、モダニズムの遺産に対し6つの異なる関係を築くことになる。

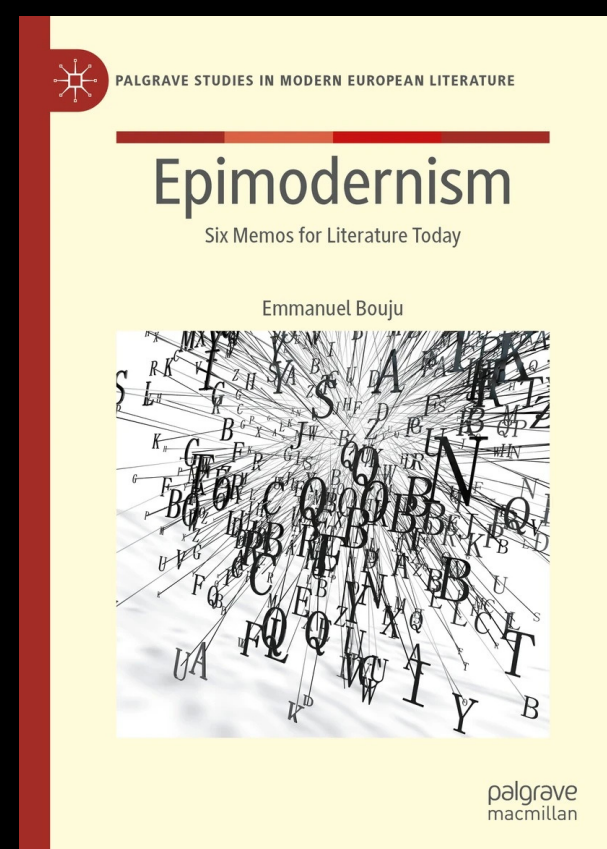
私がこんにちの文学において *Princip Principle* と呼んでいるものについて、ボスニア系フランス在住作家ヴェリボル・チョリッチ (Velibor Čolić, 1964-) などを例に論じてみたい。

WIAS TOP RUNNERS' LECTURE COLLECTION

EMMANUEL BOJU

エマニュエル・ブジュ教授講演会

2025年10月11日(土) 14:00~16:30
早稲田大学19号館 711教室



※講演言語：フランス語

通訳：三浦 信孝 中央大学名誉教授 *Prof. Nobutaka MIURA (Chuo University, IFRJ/MFJ)*

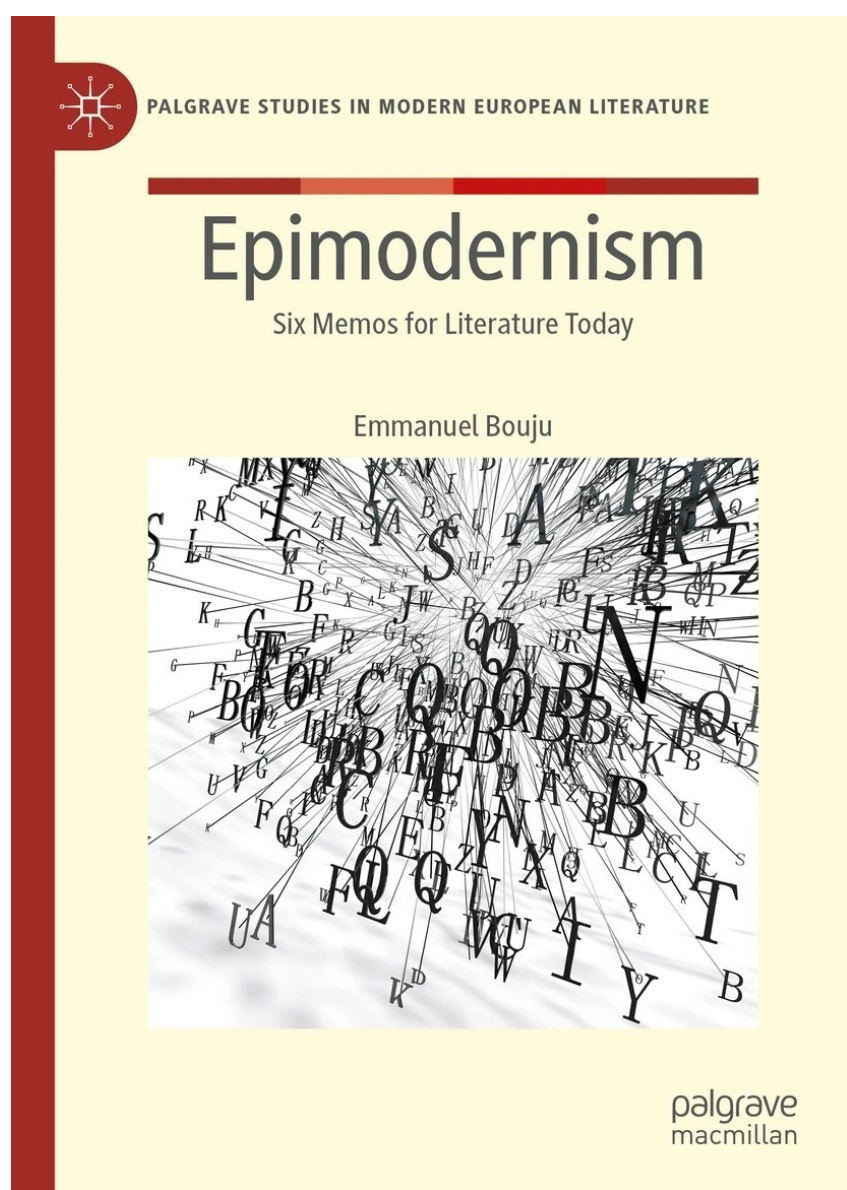
【主催】早稲田大学高等研究所 *Waseda Institute for Advanced Study (WIAS)*

【企画・進行】松尾 梨沙 講師 *Dr. Risa MATSUO (Assistant Professor, WIAS)*

※お問い合わせ：*risa.matsuo[at]aoni.waseda.jp*



WASEDA University
早稲田大学



カフカやカルヴィーノ，ベンヤミン，ドゥルーズを土台に，E・ブジュは現代作家たちの間を自由に動き回り，「文学と芸術の非連続性に対する新たな一貫性」の中で，モダニズムの主題と比喩の複雑な再活性化を探っている。強烈であると同時に遊び心に満ちたエピモダニズムは，こんにちのナラティヴ研究に新たな息吹を吹き込んでいる。

ーD・ダムロッシュ
(比較文学者，ハーヴァード大学)

エピは「表面」「共に」「間で」を表す接頭辞だが，ここでは後期資本主義の解体により疲弊した「イズム」や「ポスト」を回避する文芸批評の語彙として，大胆かつ興味深い方法で用いられている。真の比較文学者であるE・ブジュは6つの「メモ」を提供し，その各々が複数の言語，伝統，文化遺産を横断する文学的なエピ現象を描く。カフカのKの音価から現代のメタナラティヴにおける暗号通貨や自動操縦装置に至るまで，エピモダニズムはこれまで未知であり未公認であった美学的なミクロ世界の脇道を探究する。

ーE・アプター
(仏文学者・比較文学者，ニューヨーク大学)

【講演者】エマニュエル・ブジュ (Prof. Emmanuel BOUJU)

比較文学者。パリ第3大学 (Université Sorbonne Nouvelle) 教授・比較学研究センター (CERC) 所長，フランス大学学院名誉上級会員。インディアナ大学ブルーミントン校およびハーヴァード大学客員教授。近年の代表的著書として *Épimodernes. Nouvelles « leçons américaines » sur l'actualité du roman* (Codicille, 2020) およびその英語版 *Epimodernism. Six Memos for Literature Today* (Palgrave-MacMillan, 2023) ほか多数。

【日仏通訳者】三浦 信孝 (Prof. Nobutaka MIURA)

フランス文学者・通訳者。中央大学名誉教授，日仏会館顧問。元・日本フランス語教育学会会長。著書『現代フランスを読む 共和国・多文化主義・クレオール』(大修館書店，2002)，共編著『トクヴィルとデモクラシーの現在』(東京大学出版会，2009)，共訳書『実践理性 行動の理論について』(P・ブルデュー著，藤原書店，2007) ほか多数。

VISITING INFORMATION 会場アクセス

早稲田大学高等研究所
早稲田キャンパス19号館
7階711教室

〒169-0051
新宿区西早稲田1-21-1

【交通案内】

- ・JR山手線高田馬場駅 徒歩20分
- ・西武新宿線高田馬場駅 徒歩20分
- ・東京メトロ東西線早稲田駅 徒歩10分
- ・都電荒川線早稲田駅 徒歩5分
- ・都営バス[学02]早大正門行き
西早稲田バス停 徒歩5分

